

令和2年度学校評価アンケート結果・学校関係者評価結果を踏まえた学校評価のまとめ

千葉県立松戸国際高等学校

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	1 組織内の連絡・相談と組織間の連携・協力を意識した教育活動を推進する。	① —1 教職員用の学校ホームページを活用し、適時性の高い情報交換を行う。 ① —2 教職員がそれぞれ担当する教育活動をホームページに掲載する。	① —1 教職員用のページの掲示板の活用状況。 ① —2 ホームページの掲載内容の更新状況。	① —1 4月から5月の臨時休業中、職員も在宅勤務・輪番制となったが、その際、朝の打合せの内容提示、年次、分掌ごとの情報共有・意見交換等、毎日頻繁に更新され、有効に活用された。 ① —2 4月から5月にかけての臨時休業中は、学校の運営状況の伝達や、各教科担当者からの課題についての連絡が日々更新され、学校再開後は、授業風景や部活動の取組、学校行事等について、教職員が「スクールライフ」へ写真入りで投稿するなど、在校生・保護者、卒業生、本校入学希望者へ向けて毎日更新されている。	① —1 今後、再度、在宅勤務・輪番制となったときにも、教職員用のページの有効活用を同様に行っていくことを周知する。 ① —2 現在も頻繁に教育活動に関する投稿は行われているが、今後、すべての教職員が積極的に運用できるよう、投稿の方法を改めて周知する。	① —1 学校ホームページを利用し、朝の打合せの内容提示、年次、分掌ごとの情報共有・意見交換等を行うというのは非常に有効な手立てである。今後の緊急時にも活用していくべきである。 ① —2 ホームページへの投稿を全職員でという姿勢がすばらしい。今後も外への発信を続けてほしい。又、見やすさを追求した構成・デザインのさらなる改善にも期待する。	① —1 次年度も、在宅勤務・輪番制となったときには、学校ホームページの教職員用のページを活用し、朝の打合せの内容提示、年次、分掌ごとの情報共有・意見交換等を行っていくことを周知徹底する。 ① —2 これまで以上に多くの職員がホームページに投稿するよう声掛けをし、校外への発信をさらに増やしていく。見やすさを追求した構成・デザインの改善にも取り組みたい。
	2 働き方改革の推進とコンプライアンス意識の向上を図る。	② タイムカードの記録を活用し日頃の業務改善への取組状況を精査する。	② タイムカードの記録更新状況。	② 10月分から、教職員が各自で、データによる打刻記録の確認、修正をすることができるようになったことから、毎日のタイムカードの記録更新状況も良好になったと考えられる。	② 時間外勤務の多い教職員へは声掛けや面談を行っているが、業務改善につながる具体的方策を当該職員に示す等、実際の改善につなげていく。	② 各自が打刻記録を振り返ることは日常の取り組み方を考える上で有効である。併せて、業務の精査や割振りの平準化を考えるきっかけにしてほしい。	② 時間外勤務の多い教職員へは業務改善につながる具体的方策を示す。又、次年度の校務分掌編成の際、業務の平準化を意識して調整を図る。

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善方策)
学習指導	<p>1 学んだことを自分の言葉で表現できる 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行う。</p> <p>2 自学自習を促す具体的な方策の検討と実施を図る。</p>	<p>① —1 生徒による授業評価アンケートを実施する。</p> <p>① —2 学力向上委員会による授業力向上研修を実施する。</p> <p>② 学習支援ソフトや、オンラインツールの利用方法の研究・開発を行う。</p>	<p>① —1 生徒アンケートにおける思考力・判断力・表現力の項目で肯定的回答80%を達成したか。</p> <p>① —2 授業力向上研修の実施状況。</p> <p>② 学習支援ソフトやオンラインツールの利用についてアンケートをもとにした振り返り。</p>	<p>① —1 生徒アンケートにおける思考力・判断力・表現力の項目で肯定的回答は83.2% (前年度比19.8ポイント増) に達成した。</p> <p>① —2 学力向上委員会では、11月後半に2週間の学力向上週間を設け、相互授業参観を奨励し、12月には、授業アンケート実施による各教科担当者の振り返りを呼びかけた。今年度の授業力向上研修は、3回にわたる学力向上委員による「観点別評価方法についての研究会」とし、各教科の課題や素案を取りまとめ、職員会議で発表することとした。</p> <p>② 学習支援ソフトClassi、学校HP、英語学習DMM.com等を活用し、臨時休業中の課題の提供や家庭学習の充実を図った。生徒アンケートでは、教職員の学習支援に対する工夫という点では、肯定的回答は83.7% (前年度比7.9ポイント増) に達成したが、自学自習については、肯定的回答は50.9% (前年度比2.8ポイント減) であった。</p>	<p>① —1 目標の数値を維持、向上していくために、今後も引き続き創意工夫を重ねていく。</p> <p>① —2 「観点別評価方法」の、令和4年度からの運用に向け、さらに具体化していくための検討を重ねるとともに、講師を招いた授業力向上研修会を実施する。</p> <p>② 学習支援ソフトの活用幅がさらに広がっていくよう、本校における活用事例を取り上げながら、学力向上委員会を通じて、教職員や生徒へ積極的に呼びかけを行っていく。</p>	<p>① —1 前年度比19.8ポイント増の結果は特筆すべきことである。</p> <p>① —2 学力向上週間のみならず、日頃から相互授業参観を行ったり、授業力向上研修会で専門家の意見を聞いたりすることで、「授業で勝負できる教師」を目指していってもらいたい。授業アンケートは前・後期で行ってみるのも有効かと思われる。</p> <p>② 学習支援ソフトの活用方法や提供の仕方を工夫することで、生徒たちの自学自習の習慣が育まれることが期待される。又、学習支援ソフトやオンラインツールの活用が将来教育の一側面となっていくことを念頭に、その利用方法について検討を重ねていきたい。</p>	<p>① —1 全職員が現在の取組を見直し、次年度に向けての改善策を練り、目標の数値の維持、向上を目指していく。</p> <p>① —2 学力向上週間、授業アンケート、授業力向上研修を三本柱に据えつつ、日常的な相互授業参観を奨励していく。年間をとおして授業力向上を目指すためにも、学力向上委員会が中心となって計画を進めていきたい。</p> <p>② 学校で提供される教育活動と学習支援ソフトとの間で相乗効果が生まれるよう、学習支援ソフトのより効果的な利用方法や提供の仕方を学力向上委員会が中心となって検討していきたい。また、これまでの本校における実践事例を職員間で共有し、活用頻度を上げていきたい。</p>

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善方策)
生徒指導	<p>1 生徒の健やかな心身の育成といじめのない学校づくりを推進する。</p> <p>2 生徒に考えさせる生徒指導を推進する。</p>	<p>① —1 教育相談・支援委員会による「生活状況調査」を実施する。</p> <p>① —2 個人面談を実施する。</p> <p>① —3 「学校いじめ防止基本方針」を周知し、いじめを許さない環境づくりを行う。</p> <p>② 生徒指導部と年次主任との連携、並びに、道徳教育推進委員会を活用し生徒の自律を促す。</p>	<p>① —1 「生活状況調査」の結果の分析・活用状況。</p> <p>① —2 個人面談の結果の活用状況。</p> <p>① —3 生徒アンケートのいじめ防止の項目で肯定的回答70%を達成したか。</p> <p>② 生徒アンケートのルール・マナーの項目で肯定的回答95%を達成したか。</p>	<p>① —1 「生活状況調査」実施後、その結果を分析。問題や悩みを抱える生徒が数名見受けられた。</p> <p>① —2 問題や悩みを抱える生徒へは教育相談・支援委員が個別に面談を行い、委員会で情報を共有後、管理職へ報告。必要に応じて管理職が該当生徒・教職員へ事実確認等を行った。また、外国にルーツのある生徒全員に対しては、相談員による個別面接を実施した。</p> <p>① —3 生徒アンケートのいじめ防止の項目で肯定的回答は76.2% (前年度比5.4ポイント増) を達成した。</p> <p>② 肯定的回答は、登下校時、93.8% (前年度比1.5ポイント増)、学校生活92.7% (前年度比2.8ポイント増) となった。</p>	<p>① —1 昨年度に比べて、問題や悩みを抱える生徒の件数は減ったが、引き続き、教職員同士連携を取りながら、生徒を見守っていく。</p> <p>① —2 個人面談の結果については、関係各所で情報共有を行い、迅速で的確な支援を今後も続けていく。また、外国人児童生徒相談員のより効果的な活用を今後も進めていく。</p> <p>① —3 今年度から始まった月1回来校するSCへの生徒・保護者の相談は後を絶たない。引き続き、効果的な支援を提供していく。</p> <p>② 目標の95%には至らなかったの、引き続き、工夫を凝らしながら粘り強い指導をしていく。</p>	<p>① —1 これからも引き続き、日々の学校生活における生徒観察を大事にし、共感的な生徒指導と生徒の自己実現の居場所づくりに努めていただきたい。</p> <p>① —2 個人面談が形骸化することなくより効果的なものになるよう、教職員向けのスキルアップ研修等を行うことは有効かと思われる。又、悩みを抱える生徒への個別対応と情報の共有はこれからもしっかりと行ってほしい。</p> <p>① —3 じっくりと丁寧に日々の生徒の様子を観察することがいじめ防止の最も効果的な対処法である。そのためには教師が落ち着いて生徒と向かい合う時間の確保が大切である。</p> <p>② 今後もこれまでと同様、粘り強く生徒たちへ声掛けをしながら、ルール・マナーに対する意識を育んでいってもらいたい。</p>	<p>① —1 今年度の「生活状況調査」の結果を踏まえ、次年度へ情報をつなげ、年度始めに確実に教育相談・支援委員会内で共有していく。</p> <p>① —2 各担任や外国人児童生徒相談員の個人面談の結果が委員会や管理職へ迅速かつ的確に伝わるような体制をこれまで以上に整えていきたい。</p> <p>① —3 SCを生徒・保護者や教育相談・支援委員会の存在の周知徹底を図り、生徒・保護者へのより丁寧できめ細やかな対応を推奨していく。</p> <p>② 目標の95%を目指し、日常の声かけ運動を引き続き、粘り強く行っていく。</p>

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善方策)
キャリア教育	<p>1 高大接続改革への適切な対応を推進する。</p> <p>2 個に応じたキャリア教育を推進する。</p>	<p>① 夏季休業中の補講、個別キャリアガイダンスをととした積極的な支援を行う。</p> <p>② 総合的な学習(探求)の時間を活用し、外部講師による講演会や進路ガイダンスを実施する。</p>	<p>① ガイダンスの実施状況。</p> <p>② 進路講演会の実施回数。生徒アンケートの進路指導の項目で肯定的回答70%を達成したか。</p>	<p>① 夏季休業中の補講や個別キャリアガイダンスでは、会場の換気や集合人数に上限を設けたり、放送を利用したりする等、様々な制約もあったが、予定していた内容について実施することができた。</p> <p>② 進路講演会の実施回数は1年次5回、2年次5回、3年次7回。生徒アンケートの進路指導の項目で肯定的回答は78.3%(前年度比5.7ポイント増)であった。</p>	<p>① 新型コロナウイルス感染防止の観点から、例年とは違う対応を必要とするも、工夫を凝らしながら実施。来年度も、今年度の反省を基に、企業や大学側が提示する内容を着実に生徒・保護者へ周知できるシステムづくりを確立する。</p> <p>② 生徒アンケートの進路指導の項目で肯定的回答は前年度より5.7ポイント上がったが、年次によって差が見られる。特に2年次保護者へは保護者対象のガイダンスの代替案を検討する。</p>	<p>① 様々な制限がかかる中、予定の内容を実施委したことを評価する。個別キャリアガイダンスなどは、社会で活躍する卒業生を多方面から招き、在校生や保護者が様々な話を聞く機会が持てるとうい。</p> <p>② 卒業直後の進路に特化することなく、その先の人生を見据えたキャリア教育を推進しながら、生徒たちが社会で生き抜くための社会力も育ててほしい。</p>	<p>① 今年度の反省を生かし、例年とは違う工夫を凝らした方法で、生徒・保護者へ、企業や大学側が提示する内容を確実に周知していく体制を整えていきたい。</p> <p>② 進路講演会は内容を精査しながら、次年度も積極的に開催していく。今年度の反省を生かし、特に2年次保護者へは保護者対象のガイダンスの代替案を検討していく。</p>

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ(課題と次年度に向けた改善方策)
特色ある教育活動	1 文部科学省「実践研究協力校」、千葉「英語教育拠点校」、「教育課程研究指定校」事業をとおして英語指導力向上を図る。	① ー1 文部科学省教科調査官及び近隣の学校の教職員からの助言・感想を基に、PDCAサイクルによるマネジメントを行う。	① ー1 研究協議会のアンケート活用状況。	① ー1 今年度は、近隣学校の教職員の協議会参加はなかったため、研究協議会における、文部科学省教科調査官と県教委指導主事からの助言・感想を基に、PDCAサイクルによるマネジメントを行い、英語指導力向上を伸ばし、「教育課程研究指定校」事業の発表で、その成果を披露した。また、本校の英語教育の様子が全国紙で紹介された。	① ー1 来年度は、近隣学校の教職員の助言・感想も取り入れながら、さらなる改善を重ねていく。	① ー1、2 研究の成果について、校内の英語以外の教科とも共有し、そのノウハウを広げてみてはどうか。また、来年度は、従来通り、近隣学校の教職員が参加する形での研究協議会が実施されることを期待する。	① ー1 来年度は、近隣学校の教職員を招いての公開授業や研究協議会を実現し、本校の研究成果を外部に広める機会を設けたい。
	2 ユネスコスクールやESD部会の活動及び組織的な国際交流活動をとおして、生徒のグローバルな視点を育成する。	① ー2 今年度、従来の「CAN-DOリスト」を改訂する。	① ー2 改訂版「CAN-DOリスト」を作成したか。	① ー2 改訂版「CAN-DOリスト」を作成し、今年度は、それを基にした英語教育活動を展開した。	① ー2 生徒のアンケート回答からも、その成果が証明されたが、逆に、弱いと思われる部分の強化を図っていく。	② ー1 清掃ボランティアは近隣住民からも好評なので、来年度もユネスコスクールの定例行事として継続する。	② ー1 清掃ボランティアは、地域の信頼を集めているので続けてほしい。利用駅周辺(駅前ロータリーや駐輪場等)も行ってみたいかどうか。小中学校での学習支援ボランティアもお願いしたい。
		② ー1 ユネスコスクールの加盟校として、積極的に行事へ参加する。	② ー1 ユネスコスクールに関する行事への参加状況及び生徒の感想。	② ー1 今年度は、10月に学校周辺清掃のボランティアを全校生徒に呼びかけ、100人を超える生徒の参加があった。その様子は、県教委ホームページのフォトニュースでも取り上げられた。	② ー1 清掃ボランティアは近隣住民からも好評なので、来年度もユネスコスクールの定例行事として継続する。	② ー1 清掃ボランティアは、地域の信頼を集めているので続けてほしい。利用駅周辺(駅前ロータリーや駐輪場等)も行ってみたいかどうか。小中学校での学習支援ボランティアもお願いしたい。	② ー1 来年度も、ユネスコスクールの定例行事として清掃ボランティアを継続し、新規のボランティア活動も増やしていきたい。
		② ー2 ESD部会の活動を周知してSDGsへの理解を生徒に促す。	② ー2 生徒アンケートの国際理解教育の項目で肯定的回答80%を達成したか。	② ー2 国際理解教育の項目で肯定的回答は77.9%(前年度比7.1ポイント減)となった。	② ー2 今年度は、すべての国際交流活動が中止になったが、来年度は、代替の活動を計画し、対応を図っていく。	② ー2 姉妹校とはオンライン等を活用して、交流活動を継続し、国際理解教育を継続して行ってほしい。	② ー2 来年度は、従来とは別の形で、国内においても実現可能な国際交流活動を開拓し、積極的に実施していきたい。